

Mランド丹波ささ山校 ニュース Vol. 6

平成19年5月1日発行 篠山自動車教習所 兵庫県篠山市池上569 発行責任者 井 隆 正義

Mランド丹波ささ山校
ウォッキング！

■高校生の卒業をひかえた三月
までは教習所は一年中で一番
賑わう時期です。

桜が咲き始め、少し落ち着き
を取り戻した感じがするある日、
教習所の一角にあるカブエ「ミロ」
から明るい弾んだ声が聞こえて
きます。のぞいて見ると、ここM
ランドを卒業して免許証を手に
した友達が集まっての同窓会との
こと、「ようこそ、ようこそ」と早
速カメラに向けて「ハイ。チーズ」
写真をパチリ！



初心者マークをつけて緊張の
面持ちでハンドルを握る女性、も
う高校の制服姿ではありません
が見覚えのある顔です。助手席
にはお父さんらしき男性、駐車

車にとめて、ドアを開けて出で
きたときのこぼれるような笑顔
はほんとうに嬉しそうです。後

部座席からはお母さんと妹(?)
さんがやっと解放されたというよ
うな顔でおりてきました。家族
みんなでドライブを兼ねて教習
所に報告に来たんだとのことで

益田市で開催された「日本を美
しくする・益田掃除に学ぶ会」に
ささ山校より宮林・井本・石橋
の三名が参加しました。

車で片道五時間かけての移動
も、鍵山秀三郎先生(イエロー・ハッ
ト相談役)の講演、掃除仲間との
懇親会、そして翌日は益田東高
校で生徒さんと一緒にトイレ掃
除とたいへん充実した時間を過
ごすことができました。

また、講演会場や宿泊場所が
私たちの理念の原点でもあるM
ランド益田校ということで、その
基本的な想いにあらためて触れ
る機会となりました。

掃除に学ぶ会に参加！

『参加者レポートより抜粋』
■小さなことを見逃すと大き
な問題につながると言われたこ
とが印象に残りました。周りに
気を配り、気がつけば対処する、
誰かがしてくれるだろうの考え
方では生き残っていけません。

普通二輪を増車！

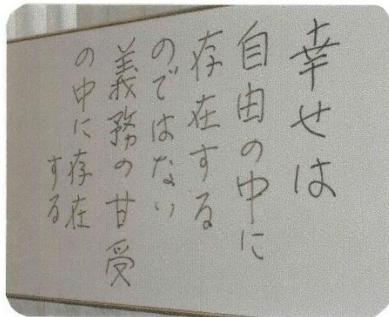


聴取する石橋と井本（前列左の二人）



講演される鍵山先生

※先生の板書によることば



■やり続けていれば必ず報われる。経済的価値を超えて努力を
続けると自分が思っていたものとは違った形になつても必ず報われ
る。

私は風となり、
光となる。
すべてと一つになる瞬間
私の心が
さまざまな壁を超えて
世界を一つにする。

「ワンハート・
ワントールド」



増車により、いっそう態勢が整つてしまひました。

二輪車はライダーに自然との
一体感を生む楽しい乗り物であ
るから、周囲の交通や環境と調
和できるライダーになることを
指導します。

免許制度変更！

■平成十九年六月二日、中型自動車・中型免許が新設されます。

これまで普通免許で運転できた貨物自動車の死亡事故件数の著しい増加や貨物自動車の大型化に対処し、運転者の技能及び知識の不足による貨物自動車の事故防止を図るため、このたびの法改正となりました。

『高貴な聖なる義務』

Mランドではゲスト、スタッフ全員が名札をつけていますが、大型車のゲストには「ノーブレスオブリージュ」と書かれた名札をつけていただいています。それはつぎのように願いからです。

大きいものは小さいものを助ける義務があります。特車（大型車）は文字通りその存在だけで威圧感のあるものです。大きい車は視点が高いため、どうしても見下した考え方をしがちですが、道路上では全ての車が平等でなければなりません。

フランスには、ノーブレスオブリージュ「高貴な聖なる義務」ということばがあります。貴族は高い地位に伴う道徳的、精神的責任が求められるという意味です。特車を運転する人は、普通車や二輪・歩行者をいたわり、間合いや節度をもって走行するのが義務です。常にノーブレスオブリージュの精神でいたわりのある運転をしましょう。

絵でがみ体験会

次回は五月十七日（木）午後一時～三時で開催する予定です。



※初めてとは思えない思い切りのいい

ゲスト 加藤孝章さんの作品

お別れ掃除の会？

■Mランドでは、トイレ掃除や近隣の掃除がボランティア活動としてあります。毎朝ゲストの有志とスタッフで行ないますが、先ごろ同じ日に入所された方同志で卒業を前に「お別れ掃除」をしようという声が上がりました。話を聞きつけて別の日の入所の方もこれに応えて加わりました。

この日は校内掃除ということでみんなは床のタイル磨きに汗を流しました。



お別れ掃除に参加したみなさんです。

Mランドの床磨きには、伝説？があります。当初は黒く汚れた床ながらワックスがかかり、かえって掃除をしても汚れは落ちません。

これをゲストと共に磨き始めたのがきっかけとなり、後から入所した方に次々に伝承されてきました。

一所懸命、まさしく一点、タイル一枚に集中して、今、ここをきれいにするというこどでゲストには人気の会となりました。伝承はこれからもまだ続くと思いますが、「ひとつ拾えればひとつだけきれいになる」という初心を忘れないように、また一所懸命の気持ちを刻むためにも記念の一枚として元の黒いタイルを残しています。

自動車の初心運転者の期間（一年間）における初心者マークは、若葉マークとも言われます。夏の暑い日差しの中や冬の厳しい寒さをの太さしかない幹でも、その小さな新芽がとても愛おしく、まだ四～五センチの冬を越えたんだと思うと、ゲストには人気の会となりました。

コース内に去年植えた南京ハゼの木も、枝に先が紅色の新芽をのぞかせております。

厳しい風雪に耐え、初めての冬を越えたんだと思うと、その小さな新芽がとても愛おしく、まだ四～五センチの冬を越えたんだと思うと、ゲストには人気の会となりました。

編集後記